

かお・人・interview

2025年9月25日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
唐津港湾事務所 所長

吉田 豊成氏

YOSHIDA Hosei

唐津港湾事務所は重要港湾である唐津港と伊万里港の整備を担っている。かつて大陸貿易の拠点として発展した両港は、現在も物流と観光の機能が融合し、地域住民による海岸清掃や賑わいの創出など港の将来を見据えた取り組みが盛んだ。「地域が育んできた港の個性を生かし、時代のニーズに合わせて発展させていくことが重要」と吉田豊成所長は語る。今後の発展や課題について話を伺った。

Q所長就任にあたっての抱負

唐津港と伊万里港はともに昭和26年に重要港湾に指定され、当事務所は、国の直轄事業として2つの港の整備を担っています。どちらの港も古くから大陸との交易拠点として栄え、また、明治・大正期にかけては、石炭の積出港として、国内の大手商社や銀行が支店を構えて栄華を図っていました。赴任して感じていることは、両港も、地域の皆さまから愛され大事にされている港であるということです。

例えば、海岸清掃や虹の松原を守る地域ボランティアの活動には、あらゆる職種の皆様と一緒に取り組んでいます。また、それぞれの港の将来や利用促進を話し合う協議会では、港の活用や将来像を地域の皆で前向きに活発に議論しています。海とまちの生活の距離感が非常に近いと感じます。港の特色を生かしながら、地域の方々が築いてきた港を、その時々ニーズに合わせて少しでも発展させていければと思います。



▲唐津港（東港地区）

また、職場や建設業自体の職員が減っていく中で、チームとして明るく前向きに仕事ができるような雰囲気づくりが大切だと思います。ワークライフバランスを保ち、自身に合った働き方や時間の使い方を見つけてほしいと思います。

Q佐賀県や九州地区とのかかわり

最近では、福岡空港の滑走路増設事業に携わり、無事、当初の計画通り今年3月20日に2本目の滑走路の供用開始に至りました。工事開始から約10年に及ぶ大規模プロジェクトの完成に立ち会えたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。改めて、こ



唐津港も伊万里港も地域の歴史や文化と密接に結びつき、独自の港湾文化が育まれている。

の事業に携わったすべての方々に、感謝と敬意を表します。滑走路の増設を契機に、福岡空港の周辺開発は、現在も進行中です。今後のさらなる発展を見守っていききたいと思います。

また、30代半ばには、中南米のパナマ共和国大使館へ書記官として3年間赴任する機会を得ました。海運にとって、船の大きさの世界基準となる「パナマ運河」の拡張計画の最中でした。国を貫いて船を通すという壮大な構想に感銘を受け、現地でコンテナを満載したパナマックスが水路を横切る様子は、まるで横倒しのビルが移動しているようで圧巻の光景でした。パナマ運河は1914年に開通しましたが、私が唐津港に赴任して、当地の市議会議員から、パナマ運河を最初に通過して、アジアを目指した英貨物船「ボルトン・キャッスル号」が、最初の寄港地に選んだ港が唐津港と聞き、不思議な縁を感じました。当時は石炭を補給するために、英貨物船は寄港しましたが、当時から、今でも唐津の土地で感じる「おもてなし」の精神が良かったと想像します。事実、運河開通により世界一周航路が開設され、唐津港が給炭・給水の港となりました。

「みなとオアシス」という港の施設やスペースを活用して住民参加型の地域振興に関わる取り組みでは、大分港、鹿児島港と並んで唐津港が九州第1号認定を受けました。このフェリーターミナル横には、関係者の手によりボルトン・キャッスル号の寄港100年を祝う記念碑が建立されています。

Q 当事務所の紹介

当事務所は、重要港湾である唐津港と伊万里港2つの港を担務しています。常勤及び非常勤職員をあわせて16名体制で、防波堤や岸壁等の施設整備や流通効率化のための臨港道路の整備を行っています。また、地震・台風等の自然災害等の防災への備え、各種関係機

関と連携した水際の安全・安心のための危機管理体制の強化、さらには、港周辺の松原保全活動など環境活動にも取り組んでいます。



▲美しい砂浜で人々を魅了する唐津港

それぞれの港には特徴があります。唐津港は物流の機能やフェリーによる離島との人流機能、唐津城を中心に両側に、虹の松原や美しい海浜が広がる賑わいの機能等がコンパクトに揃っている港です。歴史的にも唐津城を中心に、市民生活と港が密接に結びついており、地域に根ざした親しみやすい港です。

一方、伊万里港は、造船業や半導体産業、木材加工業等の国内有数の企業が稼働する産業港です。工業出荷額でみた各市町別統計では、伊万里市が佐賀県内でトップを誇ります。まさに、港の産業が県内の経済を大きく牽引しています。

Q 今年度の事業概要

【唐津港】

複合一貫輸送ターミナルの整備として、東港地区で浚渫工事を実施しています。水深は9mを目標としており、

達成すればラグジュアリークラスの中型クルーズ船も入港が可能になります。近年、年間約10隻のクルーズ船が寄港し、市内観光を楽しむ外国人観光客が増えています。また、老朽化した岸壁の予防的なメンテナンスも進めています。貨物が集中する妙見地区の水深7.5mの岸壁で令和3年度から工事を始めて来年度には完成を予定しています。



▲全室がスイートのスター・レジェンド寄港



▲産業港として佐賀県内トップの伊万里港

【伊万里港】

これまで、ふ頭間をつなぐ臨港道路の整備を進めてきました。令和4年8月に臨港道路「七ツ島線」が完成し、この連絡道路によって、大型トラックの通行や付近の道路の混雑緩和に大きく役立っています。ふ頭間をショートカットで結ぶ臨港道路約1kmの橋梁を含んだ道路です。現在は、伊万里港の玄関口にあたる「伊万里湾大橋」の塗装打ち換え工事を進めています。2003年の供用開始から20年以上が経過して劣化が進行しているため、主に塗装の打ち換え補修工事を行っています。

Q 地域との連携・協働について

当地域では、環境保全活動として海岸清掃や松原を守る会など、住民によるさまざまなボランティア活動が活

発に行われています。今年は事務所のメンバーで2度参加しました。海開き前の「西の浜」の清掃と「ラブ・アースクリーンアップー斉清掃」にも加わり、清々しい汗をかきました。

また、外国クルーズ船が入出港時には、みなとオアシスにて歓迎セレモニーが行われることから、着岸バスに出向いて歓迎しています。今後も事務所として積極的に参加して、地域とのつながりを大事にしたいと思います。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

建設業は地域の守り手として生活基盤を支え、重要な役割を担っています。近年、頻発化する自然災害の対策として、常日頃から作業船や人材の確保が重要です。このためには、当事務所としても、地域のニーズに即した事業を安定的に展開し、明確な展望を示すことが必要だと認識しています。今後とも港湾に関する地元の要望を把握し、地域の発展に貢献する港湾整備を目指して取り組んで参りますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

唐津港と伊万里港においては、将来に向けた計画づくりが進んでいます。港の特色を生かし、豊かな自然との調和のもとに発展させるため微力ながら力を尽くしてまいります。

Q 趣味や健康法について

体を動かすことが好きですので、主に低山を中心に登山をしています。おかげさまで、学生時代からほとんど体形が変わっていないのが密かな自慢です。今年は猛暑が続いていますので、気温が下がってから唐津周辺の山歩きを計画しています。

現在は、週末のドライブも楽しんでいます。長年憧れていた外国車を手に入れたことで、新しい赴任地の周辺を走るのが一層楽しくなりました。自分の足でいろいろな場所を巡ることで、新しい発見があるのも魅力のひとつです。

プロフィール



宮崎県生まれ、58歳。

H 2年4月 第四港湾建設局海域整備課 採用

H14年4月 外務省在パナマ日本大使館
二等書記官

H20年4月 九州地方整備局 道路部 道路計画
第二課計画係長

H26年4月 中国地方整備局 港湾空港部 物流企画室・クルーズ振興 課長補佐

H31年4月 国土政策局 広域地方政策課 課長補佐
(国土政策局 離島振興課 併任)

R 6年4月 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所 副所長

R 7年4月 現職